令和７年度北海道地域学校協働活動推進会議 作成

地学協働アイテム No.27

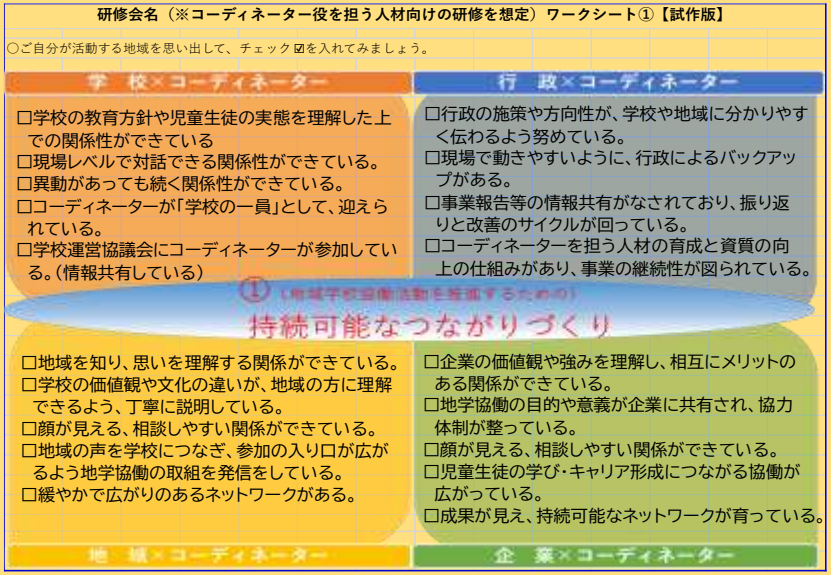
ワークシートの活用案

・本資料は、各地域でコーディネーター役を担う方に向けた研修等で活用いただくための資料として、「令和７年度 北海道地域学校協働活動推進会議」で１年間協議を経て、作成したものです。研修等に役立てていただければ、幸いです。

・本資料は、出典を明記することにより、複製、加工、編集等を自由に行うことができます。なお、本資料の著作権は北海道地域学校協働活動推進会議に帰属します。

2．ワークシートについて

ワークシート①「持続可能なつながりづくり」


研修会名（※コーディネーター役を担う人材向けの研修を想定）ワークシート①【試作版】

○ご自分が活動する地域を思い出して、チェック☑を入れてみましょう。

学　校×コーディネーター

□学校の教育方針や児童生徒の実態を理解した上での関係性ができている
□現場レベルで対話できる関係性ができている。
□異動があっても続く関係性ができている。
□コーディネーターが「学校の一員」として、迎えられている。
□学校運営協議会にコーディネーターが参加している。(情報共有している)

行　政×コーディネーター

□行政の施策や方向性が、学校や地域に分かりやすく伝わるよう努めている。
□現場で動きやすいように、行政によるバックアップがある。
□事業報告等の情報共有がなされており、振り返りと改善のサイクルが回っている。
□コーディネーターを担う人材の育成と資質の向上の仕組みがあり、事業の継続性が図られている。

①（地域学校協働活動を推進するための）
持続可能なつながりづくり

地　域×コーディネーター

□地域を知り、思いを理解する関係ができている。
□学校の価値観や文化の違いが、地域の方に理解できるよう、丁寧に説明している。
□顔が見える、相談しやすい関係ができている。
□地域の声を学校につなぎ、参加の入り口が広がるよう地学協働の取組を発信をしている。
□緩やかで広がりのあるネットワークがある。

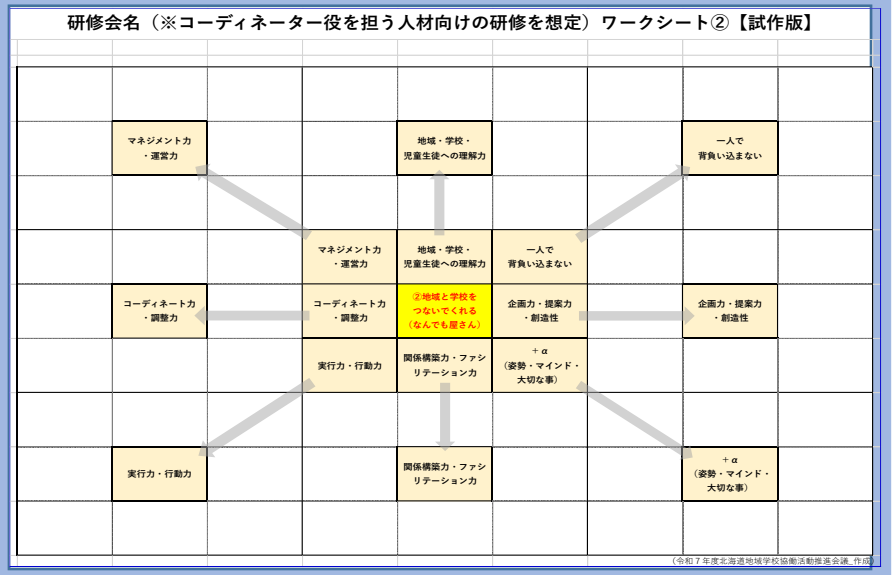
企　業×コーディネーター

□企業の価値観や強みを理解し、相互にメリットのある関係ができている。
□地学協働の目的や意義が企業に共有され、協力体制が整っている。
□顔が見える、相談しやすい関係ができている。
□児童生徒の学び・キャリア形成につながる協働が広がっている。
□成果が見え、持続可能なネットワークが育っている。

　ワークシート①は、コーディネーター役を担う方が、様々な地域の主体と望ましい関係を築いていくためのチェックリスト形式のワークシートです。

　各項目ごとの根拠として、本会議の協議内容を反映したバックデータも公開していますので、併せて活用することで研修内容がより深まります。Excelデータで公開しておりますので、地域の実情に合わせたカスタマイズも可能です。

ワークシート②「コーディネーターとは…」


研修会名（※コーディネーター役を担う人材向けの研修を想定）ワークシート②【試作版】

マネジメント力・運営力
地域・学校・児童生徒への理解力
一人で背負い込まない
コーディネート力・調整力
②地域と学校をつないでくれる（なんでも屋さん）
企画力・提案力・創造性
実行力・行動力
関係構築力・ファシリテーション力
＋α（姿勢・マインド・大切な事）

（令和７年度北海道地域学校協働活動推進会議_作成）

　ワークシート②は、コーディネーター役を担う方が、活動する上で大切だと思うことを書き出していく、個人用ワークシートです。

　本会議の協議内容を反映した回答例も公開しております。個人ワークの後に「回答例」を確認することで、新しい視点が得られ、研修内容がより深まります。「通常版」と比較的短い時間でできる「簡易版」を用意し、ワークシートはExcelデータで公開※しておりますので、こちらもカスタマイズが可能です。

※注：「回答例」は、PDFデータでの公開ですので編集できません。

３．活用例①（60～80分）

１．グループワーク（20分）
　ワークシート①を活用し、協議を通して自分たちが活動する地域を振り返り、シートの項目を　チェックしていく。
　チェック後、感想を交流する。
　※オプション（＋10分）：各項目ごとのバックデータも併せて確認するとより効果的です。

２．個人ワーク（簡易版：30分、通常版50分）
　ワークシート②を活用し、様々な地域の主体との望ましい関係を築くためにコーディネーターとして大切にしたい事を書き出していく。
　取組後、内容を交流する
　※オプション（＋５分）：当会議でR７年度に協議した内容を反映した「回答例」も参照した上で内容を交流すると、より効果的です。

３．振り返り（10分）
　研修全体を振り返る。アンケートを記入する　**等**

３．活用例②（60～80分）

１．個人ワーク（簡易版：30分、通常版50分）

ワークシート②を活用し、様々な地域の主体と望ましい関係を築くためにコーディネーターとして大切にしたい事を書き出していく。取組後、内容を交流する

※オプション（＋５分）：当会議でR７年度に協議した内容を反映した「回答例」も参照した上で内容を交流すると、より効果的です。

２．グループワーク（20分）

ワークシート①を活用し、協議を通して自分たちが活動する地域を振り返り、シートの項目を　チェックしていく。

チェック後、感想を交流する。

※オプション（＋10分）：各項目ごとのバックデータも併せて確認するとより効果的です。

３．振り返り（10分）

研修全体を振り返る。アンケートを記入する　**等**

３．その他の活用例

１．目的や時間に合わせ、各ワークシートを単体で使う。

２．年度初めと終わりに行い、変化を見る。

３．シートの形式はそのままで、各項目を自分たちの街に合わせて初めから作ってみる。

★　実際に使用した感想や効果的な活用法のアイディアありましたら、ぜひ道教委社会教育課地学協働推進係にお知らせください。